

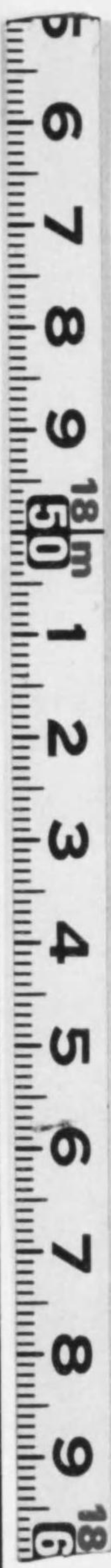
納本

ほんとうの
結核豫防法

昭和九年十月改訂第三版
昭和七年六月 第二版
昭和五年三月 第一版

特252
364

醫學博士 有馬賴吉



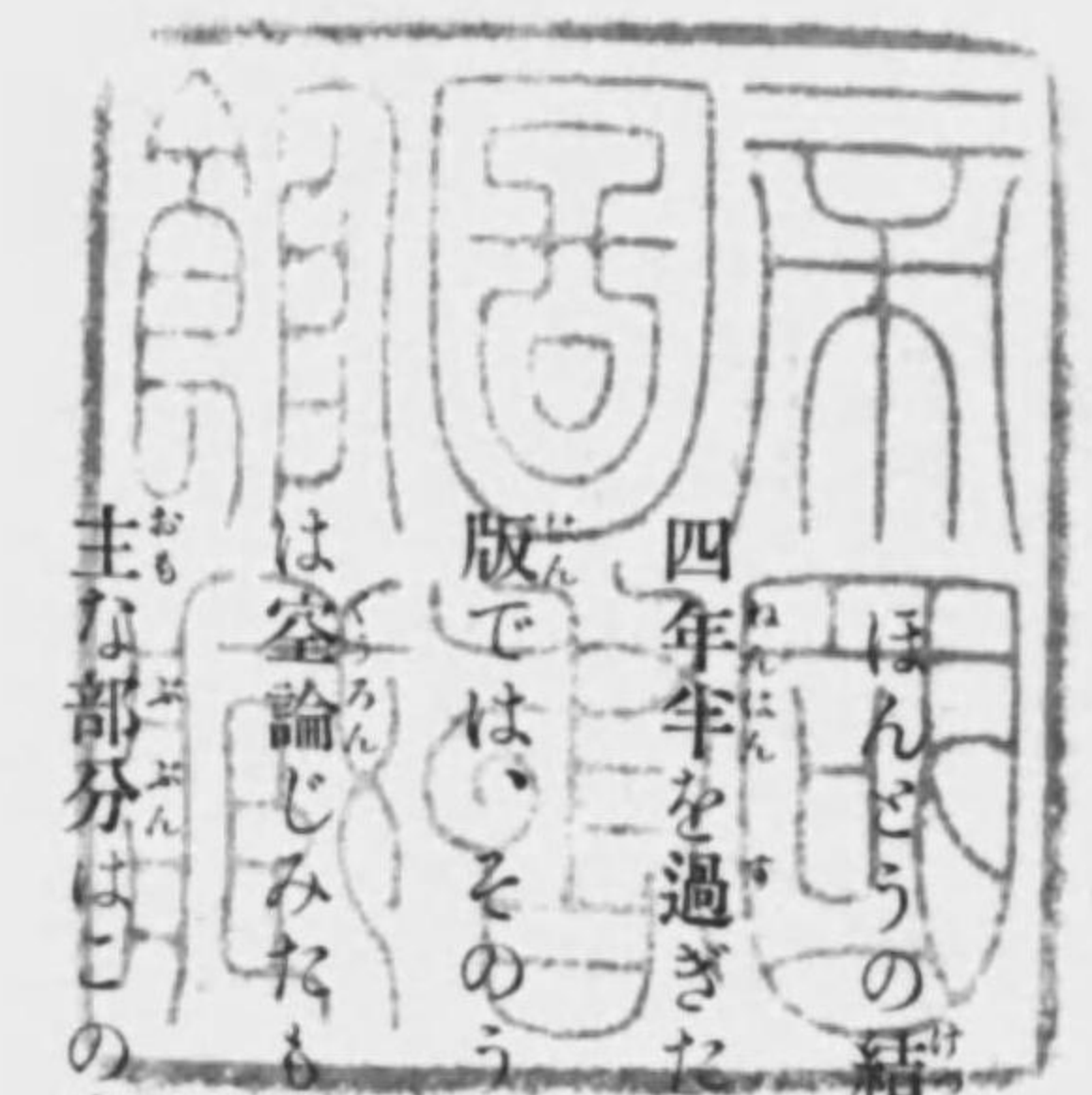
始



3

特252
364

改訂第三版について



ほんどうの結核豫防法といふものを、フトした動機で書いてから早くも
 四年半を過ぎた。その間に有益な實成績が澤山にたまつたので、今度の改
 版では、そのうちから四、五の成績を例に引いて見た。これで第二版まで
 は空論じみたものであつたが、實際論の形をそなへたことになる。改訂の
 主な部分は上の實成績で、二十七ページ以下である。

著者



ほんとうの結核豫防法

醫學博士 有馬 賴吉

はしがき

コレラの流行時に、コレラに罹らないやうにするには、飲食物に注意して、ナマ物を喰べないやうにすればよい。つまり、生きたコレラ菌を嚥込むことがなければコレラに罹ることはない。即ち豫防は、コレラ菌を口に入れないければ完全にできる。腸チフスでも、ナマ物を決して喰べさへしなければそれに罹る筈はないので、従てまた腸チフスの豫防は喰べ物に注意さへすれば完全にできる筈である。ペストは手足の傷に注意して居り傳染の媒介をする鼠を防ぎ、蚤や虱類に刺されぬやうにすれば傳染することはない。即ちこれも注意次第で完全に豫防ができる。そして此のべ

ストやコレラは、流行する時だけ注意してをれば餘の時は少しも之れに懸念する必要はない。そして、このやうな急性傳染病は、患者の数が多き時だといつても、さして多數には上らぬからして、健康人と劃然分離することができ。避病院はその目的で全国各地に各公共團體が之れを持つてゐて、いつでも患者を隔離する用意がしてある。だから流行の時にでも普通の健康人が無暗に之れに接することはない。その上、流行病は—流行性感冒は別として—全国各地に一時に來るやうなことは、昔ならいざ知らず、今後は先づ絶無と見てよい。それ程、衛生機關が備はつて居てたとへ流行するとも、それは僅か一、二の地方に限局するに過ぎぬから、流行地以外の土地の人は、殆んど少しも之れを怖れる必要がない。その上、傳染病は、年から年中、べつに流行することは先づないから—下水道の無い、人間の排泄物の始末の悪い日本では、殆んど年中各地にチフスがあることは、世界の一等國の一として資格も、誇りも、ないが—流行地の人々が、流行の時だけ、一定の方針で、要慎

をして居れば、他の地方の人はそれで安心して暮して行ける。その上に、個人に向つても、豫防注射などやらうと思へば、略ぼ完全に行はれ、一定期間、謂ゆる免疫も出来る。つまり、急性傳染病では豫防の方法があり、普通の時にはあまり恐れる必要はなくなつた。

さて結核ではどうであらうか。

第一に 結核傳染の徑路は複雑 である

單に飲食物だけとか、手足の創傷だけとかの、そんな簡單な要領では役に立たぬ。尤も飲食物からでも傳染せぬことはないが、その主なる侵入の道は、空氣を介して目・口・鼻からするのである。人間、空氣を消毒したり、煮たきして之れを呼吸することはできぬ。謂ゆる要領家が、よくマスクといふ甚だ審美的でない道具を用ひて、鼻孔と口を掩うて居るのを見かけるが、あれで以て完全に空氣を濾過して呼吸

することは到底望まれない。マスクでは精々のところが、それは怖がり屋の人々自身が安心のために役立つ位のもので、それが關の山である。況んやマスクでは、目からはいる傳染を防ぐことはできない。だからして、マスクを用ひることは、結核豫防の意味では、マア蚤が隠れて居る位のものだ。お尻の方は丸ツぼで出てゐる。つまり、結核の傳染に對しては、飲食物の要領や呼吸器の空氣濾過作用で行くつもりでも、此等では豫防はできないのである。

第二に 結核は流行地 がきまつてゐない。

文明の大小都會地、大部落等は申すに及ばず、どんな寒村僻地へ行つても、今では結核患者の住まない地上は殆んどない。従つて結核菌の散ばつて居ない所とは殆んどない。だからしてこの結核については、チフスやコレラで述べた様な、ある流行地の人々さへ要領すれば、他の地方は安心して暮して居られるといふ譯には參

らぬ。全國民、否な世界人類のすべてが、四六時中結核菌の襲來を蒙りつゝあるのである。即ち傳染の源を爲すところの病人の數が無暗に多い。日本だけでも全國では、ざつと百五十萬人位の結核患者がある。之れを隔離するつもりで、この二十年以來、國家も公共團體も、療養所の設立に努力してゐるが、中々以て九牛の一毛である。それも全国各地に、その地方團體が結核療養所を持つ譯には行かず、持つて見たとて足りそめもしない。縦し假りに、今後現在の避病院のやうに、各地到る所に結核療養所が建設されたとしても、急性傳染病とはかわり、これを維持して行くことは、現今の地方團體の財力と制度では不可能である。國庫の力も、特志家の寄附も、到底足もごにも寄りつけない。假りに又百歩を譲つて、全国各地に充分廣大な療養所が出来て、その各團體か、又は國家社會が、これを充分に維持する力を持つ時代が来るものとしたところで、猶且つ、全部の結核患者が、その中で三年五年十年と楽しんで暮して行くやうにはなりつこはない。病人も、その家族も、社會も

つまり人類全體が、それだけな辛抱をする事は、神代の時代以來持合せてゐないのである。

つまり結核患者は、數も多くあり、社會施設も足らず、病氣の経過も長いから之れを充分に隔離してその傳染の源を塞ぐ事は出来ない。

第三に 結核には流行時季 がない。

従つて、傳染に時を擇ばぬ。強めて時季ありといへば、それは寒い時候、人が主にも家の内で日を暮す場合には、感染の機會が多く、主にも戸外で日を暮す場合には、その機會が少ないと謂へやう。併し、それも田舎の事で、都會の人士は年中、大抵室内生活をやつて居るのである。重症患者は外出もしなくなつて、家内で一番危険の多い子供に結核を吹きかける。従つて年中結核傳染の機會が繁しい。その上都會地には、傳染源たる結核患者が多いのだから、流行時季などは問題ではない。

つまり、結核傳染の危険は年中ブツ通しである。四季ブツ通しに流行時である。だからして、その感染を怖がる人は、年から年中、ビク／＼してゐなければならず、それだけでも既に神経衰弱の種には充分である。さうして、之れを氣にかける人も、かけない人も、おしなべて感染してしまふのである。結核菌を吸込まぬといふことは、手つ取り早く言へば、空気を吸はぬといふことであつて、結核菌を吸はずには生きて行けぬといふことになる。社會的にも、公共的にも之れを豫防する方法など、今までの所ではありやうはない。

世界の文明國には大抵結核豫防法といふ法律がある。たとへば、大戦の前に世界醫學の淵巢で、社會衛生施設の完備を誇として居た獨逸國は素より浩瀚な結核豫防法なる法律がある。さうして、全國に亘る數百の官公立結核療養所や、頗る多數の私立療養所を統轄してゐた。尙ほその他に數百の結核豫防協會が私的團體として活動して、相提携して全社會の有ゆる階級の結核豫防に盡瘁して居た。さうして、そ

の結果、結核豫防に大功を奏し、統計の上では、明かに年々結核死亡率を遞減してゆく／＼は、結核病を人類世界から驅逐し盡すことができるかの様に夢想してゐた。そこへ、先頃の大戦争が現はれた。そして、恐れた惨敗を遂げたのであるが、その結果、最も著しく目に着く現象は、戦敗國の經濟状態の不良になつたために、従つて、國民全體、殊に下層社會の生活状態の粗悪になつたことである。此の國民の缺隙に乗じて、結核菌は噴火山の勢を以て爆發した。國民全體が上下擧つて、大金を費やし、熱心に、長い年月の間努力したことが、經濟状態の覆滅とともに一朝にして水泡に歸した。之は何を語るものであるか、といへば

つまり、是れまでの行り方では、本當の結核豫防は永劫できない。といふことを示すものである。だからして、どうしても行り方を替へなければならぬ。それに就て、私の考を述べて見たいと思ふ。さうして、この方法を確かに全國民に行ふ時には、必ず結核豫防の眞目的を達することが出来ると思ふ。

そこで、此の私の實行方法を述べる前に、今少し結核とはどういふものが、本當の相であるか、といふことを話して置く方が、事を解り易くするに便利である。それで先づ最初に

結核菌

といふものゝ理解を得ておくとしよう。

世間では結核菌といへば、どの結核菌でも、直ぐに人間の身體に飛込んで来て、さうして結核の病氣を起すものと考へて居るけれども、實際はそんなものではない。

結核の微菌といつても、

人間に病氣を起す結核菌と、また病氣を起さない結核菌とがある。

この區別は、結核の微菌夫れ自身に二種類あるといふことではない。元は皆な一種類のものであつて、皆な人間のからだだから、即ち結核患者の肺、つまり肺病患者

から出て来るものである。さうして、それが他の人間のからだに這入るまでに、傳染する微菌と、傳染しない微菌とになるのである。之れを簡単に、最も解り易く言へば、患者のからだから出て来たその刹那の微菌は生きて居つて、さうして病氣の元を爲す外道である。即ち傳染する病原である。けれども、それから時日の經つに従つて、身體外には結核菌の食物が無いために、又彼れ自身の様々な敵があるために、結核の微菌も亦た一の生き物であるからして、長く生きて居ることはできないのである。實例を言へば、結核患者の痰と共に外に出た微菌は、或は腐敗もする、或は空氣中の酸素にも會ふ、或は太陽の光線にも打たれる、或は乾いてしまふ。さういふ風な、外界の事情に依つて、結核の微菌は可なり速かに死んでしまふのである。活きた生々しい結核の微菌は傳染力をもつてゐるが、乾いたり、腐敗したり、太陽の光線に遭ふたりして、死んでしまつた微菌、若くは半死半生になつて居る微菌は、人間のからだに飛込んで来て、傳染する力はやないのである。それの

みならず、此の半死半生の微菌、若くは死んでしまつた微菌が、人間のからだに飛込んで来るに於ては、そしてこれがたび／＼繰返される時には、これを受取つた人間には、單にこれが傳染しないといふばかりでなしに、長い月日の間には、これがために

人體は謂ゆる結核免疫といふものになるのである。

かういふ譯で、元來はおなじ結核菌でも、その新舊、濃淡の差によつて、或は

人體に入り來つて病源となる惡魔外道 ともなり、或は

人體に免疫を與へる天來の神仙菩薩 ともなるのである。

言葉をかへて言へば、結核の微菌は、一方に於ては、多くの人間を侵し、人間に附いて之れを斃し、一方に於ては、非常に多くの人間を結核の傳染から保護して呉れる。天の使でもあると謂へるのである。かういふ見方をする時に、初めて多くの人間に現はれる結核といふものゝ病氣をほんどうに理解する事ができるのである。

次は

結核病の相

世間の人は、結核の病氣とさへいへば、孰れも皆な不治の病氣の様に思つて、結核であると病名をつけられるといふことは、死刑の宣告を受けた様に思ふのである。けれども、結核の病氣の型に色々あつて、結核に感染したからとて、皆が皆、死刑の宣告を受けるものではない。私の考によれば、結核菌に取つかれた人體に大體次の三ツの形が現はれる。

その一は「急性の結核」である。

急性の結核といふものは、大小の都會地や或はそれに接近した場所、私のいふ結核馴地に於ては、最大部分乳兒や幼兒や、とかく幼少の時に現はれるのであつて、

その重なるものは矢張り肺結核、腸結核及び結核性脳膜炎である。なほその外に、もう一つ粟粒結核といふものがあるが、これもやはり急性の結核である。幼少な子供の肺結核や腸結核といふものは、その容態が、大人に普通に見る慢性の結核とは違つて、性質が急性で激しいものだからして、その多くの場合は結核といふ名が附けられず、しまふのである。大都會で常に澤山な乳幼児死亡のあるは、即ち是れである。そして、死亡診断書には肺炎だとか氣管枝炎だとか消化不良だとかいふ風なことになるてしまつて居るのである。即ち結核馴地の急性結核は幼少の子供にのみあつて、成人には少く、時おりに、地方から都會に出て來た若い人々が急性の結核にかゝる位なものである。

然るに文明の程度の低い、交通の悪い山間僻地には先祖傳來殆んど結核といふものゝ存在しない所があつた。現今も僻遠の地方にはそんな所がある。こういふ地方を結核處女地といふのであるが、こんな結核處女地に、萬一結核が侵入し、家

族や、交際仲間に傳染する機會があること、子供は勿論のこと、大人でも、老人でも男女の差別なく、此の急性悪性結核を起して來る。或る所に斯ういふ實例があつた

戸數三百ばかりの聯合村の、ある家に姉妹四人の娘があつた。その姉妹に養子をした。それには子供が一人出來た。二番目の娘は他に嫁入した。三番目の娘は二十里ばかりの都會に出て紡績の女工になつた。さうして、不幸にしてこれは非常に屢々有ることであるが、遂に肺結核になつて歸つて來た。而もそれは例の急性結核であつた。さうして、歸つて來るや否や、間もなく二月三月の經過で不幸の轉歸を取つた。それは或る年の冬の初であつたが、恰度その村で、小學校の隣に裁縫の講習場があつて、雪の降る寒い間の三箇月を村内の娘どもを集めて裁縫の講習をやつた。此の講習場に其の四番目の娘が出席した。此の娘は三箇月の講習期間に漸く一箇月だけ出席して病氣になつて、僅かの經過で死んだ。その講習に出席した生徒は合計二十三人であつたが、今いふ一人の娘の外に、八人の娘までがその講習を終つてから次々に各々の家に病臥するに至つて、其の中七人までは速いは二三箇月、おそきも一二年のうちに皆死んでしまつたのである。そして各々の娘たちからその家庭で又次から

次へミ傳播して、一村内で合計二十四人の結核患者が出来た。それまでは此の土地にいふものはいはゆる結核處女地で、全くの無風帯でそれは平和な樂園であつた。かういふ寒村に、一たびかうして結核が現はれるや、それは名状すべからざる大悲劇を生むに立至つた。此の二十四人の病人は、無論子供もある。中には六十歳以上の老人もある。即ち先祖傳來結核のなかつた場所に、一旦新しい結核患者ができるといふミ、大人子供の嫌ひなく急性悪性の結核に罹るこいふことが分るのである。

之れが結核の急性の型である。

その二は「慢性の結核」である。

これぞ即ち、多くの人が怖れに怖れてゐる所の、普通の結核病の型である。この慢性の結核は三年でも、五年でも、乃至は十年も、十數年も之れに罹つて居つて、當人は固よりのこと、親兄弟やその他の周囲の人々も、それがために惱まされ、國民としての元氣が消耗する、謂ゆる國民病として恐れられるところの結核である。

その中最も多いものは無論肺結核であるが、その外に、腸結核もあれば喉頭結核もあり、骨や關節の結核もある。又眼に現はれるといふものもあるかと思へば、男女の生殖器、さては腎臓や膀胱などの臓器を侵すのである。併しまた、此の慢性の結核は、文字通り非常に月日の長くかゝるもので、人間と結核菌との長い間の戦争で、言はゞ双方の力がほゞ對等なのであるから、少しでも力の優つた方が之れに勝つことが出来るのである。だからして、若し此の病氣の初めに當つて、適當な醫治を加へ、又良い方法で養生すればいくらでも癒つてしまふのであるから、初期の間ならば結核に打勝つことは容易なのである。之れが慢性の結核の相である。

その三は 結核免疫の相 である

この結核の型は、例の傳染しないところの結核の微菌を反覆貫ひ受けた人々であつて、先きにも言ふたやうに、人間幼少の頃結核の強い微菌に取着かれると、急性

の結核になるのであるけれど、幸ひにも傳染の源となる結核患者は家ごとにある譯でないから、多くの人々は極く幼少の時に傳染を受けることは割合に少ない。さうしてひどい結核になることを免れてゐるのである。その中に四歳、五歳にもなつて戶外で遊ぶやうになり、或は學校に行くやうになり、若くは社會生活をするやうになつてから、先きに申した傳染しないところの結核菌にたび／＼出遭ふのである。さうして遂には結核の免疫といふものを貰ふのである。

斯様な風にして、一旦結核の免疫になつたからだは、其後に如何に強い結核の微菌に出遭うてもそれに傳染することは無い。常に之れに打克つことができるのである。此の人々は、實際は病人ではない。即ち醫者に掛る病人ではないけれども、人間生れた儘のからだではない。現在の學問を以て、斯ういふ風な人のからだを検査すると、立派に結核に罹つたといふ證據を見ることが出来るのであつて、學問的には矢張り一種の結核患者である。幸ひなことに此の種類の結核患者は、もう再び結

核に罹ることはないといふ結核患者であつて、結核菌に決して出遭ふたことのない人々よりも、百倍も千倍も安全な強固な、健康人である。之れが第三の結核の相である。

現在の様に交通機關の具はつて來た世界では、結核患者の居ない所は殆んどないからして、殆んど何所の土地でも結核馴地であるが、その馴地では住民の全部が、この三つの型の結核患者のどれかである。さうして最も運の悪い人は急性の結核で早く斃れ、其次に最も悲惨な人は慢性結核となり、さうして幸運な人は結核に傳染しない結核患者になつて居るのであつて、謂ゆる結核馴地の最大多數の成人は皆此の第三型の結核患者である。

都會及びその附近に於ける成人が、結核に容易に傳染しないからだになつて居るといふことは、學問的にも種々の證據があるが、實際的にも亦た著しい證據を示すことが出来る。たとへば病人を常に取扱ふ醫者であるとか、看護婦であるとかいふ

人々が、若しそれまでに少しも結核菌に觸れたことがない、出遭ふたことがないといふことであるならば、醫者や看護婦は矢張り先きに述べた赤ン坊や幼児と同じことで、直ちに結核に取附かれて、急性の結核になる筈であるが、實際はそんなことはない。これが即ち一の證據である。其の外、人間の實生活といふものは、結核傳染に極めて安全であるやうな、規則正しい衛生的な生活をして居るものでない。各々の職業や、種々の社會生活の状態といふものは、いつでも到る所で傳染力のある結核菌に出遭はないとは限らないものである。譬へて言へば、大勢の集る寄席や、芝居や、活動館や、電車或は乗合自動車などの中で結核の微菌を、咳と共に吹き出す肺結核患者と隣合せに座つて居ることなどは日常の事である。併しながら、多數の成人は、此の様な場合にても、直ぐさま結核に傳染するやうなことはないのである。なほ一ツ、最も著しい結核免疫の實例は、

夫婦間に傳染の少ない といふことである。誰れでも知つてゐる通り、肺結核患

者は世の中に非常に多いのであるが、夫婦とも肺結核患者であるといふ場合は、非常に少ないのである。之れを統計に取つて見た人があるが、それによると、亭主が結核患者であつて、細君が又た肺尖カタルであるとか、細君が結核で死んだ後で亭主が又結核病になるとかいふ風な場合は非常に少い。夫婦とも結核であるといふ場合は、結核患者の中で僅かに一割以内である。即ち結婚した結核患者（男でも女でも、その患者百夫婦の中に、精々十夫婦以内が夫婦とも結核患者であるといふに過ぎないのである。迂つかりして斯ういふ話を聞くと、それこそ夫婦間で傳染したのであらうと、人は思ふであらうけれども、實際は然うではない。なせならば、世間で結核といふ病氣は非常に多いのであるからして、今申す百夫婦の内十夫婦といふものゝうちには、元々弱い人同士が結婚したのものもある。即ち多少病氣を持つて居ることを知らずして、中には知つて居つて、そして結婚した夫婦である。残りの九十夫婦といふものは一生を共に暮しても、妻から夫に、又は夫から妻に傳染する

といふことはない。之れを以つて見ても都會に育つた成人が結核に傳染しないといふことが分る筈である。

それではごこの世界でも大人ならば傳染しないのかといふと然うではない。其事は先にも詳しく述べたが、先祖傳來結核患者の無かつたところの山間僻地即ち結核處女地に、何かの機會に結核が這入つて行くといふと、大人子供の嫌ひなく例の急性の結核に取附かれて、往々にして一家全滅といふ風な悲劇を見ることは、昔も今も決して稀ではない。即ち斯様な土地では、例の傳染しない結核菌がそれまでに無かつたから、新しい結核菌が始めて飛込むと、皆やられてしまふのであつて、大人も子供も結核に對する特別の抵抗力、即ち結核免疫といふものが全然無いからである。交通機關が開けるに連れて、此様な急性結核の悲惨なる歴史が、山間僻地の到る所に繰返されてゐるのである。

然るに都會地やその附近、即ち結核馴地では、成人は男女を問はず滅多に傳染し

ないといふことは、これは特別な事であるに違ひない。結核處女地と馴地との此の大きな相違は、何に由つて來るかといふと、それは先に話したところに徴して略々明瞭である筈である。即ち馴地の成人は、傳染しない結核菌に依つて結核免疫といふものを貰つて居るが、處女地にはまだそれが無いからである。結核の免疫といふものを都合よく貰ひ受けたならば、其後は結核に傳染しないものであるといふ譯柄は、此れで解る筈である。

此の著しい事實は、而も誰れかゞ特別に、故意にたくらんでやつたといふのでは無論なくて、

それは自然の存在であるから、是れぞいはゆる神業である。天の啓示である。かういふ天の啓示を我々は見逃してはならない。

此處まで説明して來ると結核豫防の眼目がどこに置かれてあるかゞ凡そ解る筈だと思ふ。即ち今申した様な自然の現象を、天の啓示を、正しく視て取つて、人間は

唯だその通りに眞似をすれば結核の豫防といふ事は確かに出来るものだと斷言するのである。併し、醫學の幼稚な時代には、まだ智識が充分で無かつたから、之れを都合好く實際に現はして見ることが出来なかつたのである。それで、これは到底できないこととして今では諦らめてをる學者が非常に多いのである。私たちの長年苦心したところは、之れを最も確實に事實の上に行ひ現はして見たいといふことであつたのである。少し餘談ながら、それについて尙ほ別の例を引いて見やうと思ふ。それは

種痘法發見の回顧

である。天然痘は、昔は全地球上に擴がつて居つて、日本でもツヒ明治頃までは非常に多くの人々がこれに罹り生命を奪はれ、或は失明し、或は生れもつかぬアバタ顔になつたものである。それが種痘を行ふやうになつてからといふものは、全く天然痘のわざはひから免がれて來てゐるのである。此の天然痘に對して之を豫防する

がために或はその患者を避病院に入れたり、又その他様々の社會的設備を用ひて之を豫防しようと計畫して見ても、何の役にも立たないのである。然るに一旦牛に傳染つた天然痘の膿から再び人間に戻つて、即ち種痘によつて、人間が軽い痘に罹るといふと、其後には如何に猛烈な天然痘の流行最中に飛込んでも、之れに感染することがない、といふ自然の現象即ち天の啓示に着目した者があつて種痘法の發見となり、終に十八世紀の最末葉に至つて、英國の大醫エドワード、ゼンナー氏の大努力に依つて初めて倫敦に種痘所といふものが設けられて世界に擴まるの端緒を作り、終に今日の如き全世界人類の最大幸福をもたらすに至つたものである。

この種痘の發見された道理が、恰度私の先程から述べる結核免疫が自然に存在するといふこと、同好異曲の天の啓示でないか誰が言ひ得ようか。人類の個人々々について、天然痘に對する免疫を興へたからして、即ち種痘が出来たからして、人間社會から天然痘を驅逐することができたのである。我々の結核に對する希望の園は

即ちこれと同様の考へである。國民の一人々々をすべて漏れなく結核免疫のからだに仕上げる事ができて、初めて結核を人間社會から驅逐することができると、私は固く信じてゐるものである。さうして此の事柄の願望成就せんことは、私の先きから述べたる結核馴地の成人が結核に傳染しないものだといふこと、その事が活きた何よりの證據である。だからしても早や確實な話である。結核豫防の眞隨は

個體免疫

といふ一言に盡きて居る。

此の結核免疫法を發見する爲めに、今まで世界中の大勢の學者が苦心はしたけれども、不幸にして成就しなかつた。十年この方を顧みても、さういふ目的で生れた結核免疫法なるものが三、四ある。そのうちで、現今最も學者間の注意を惹いて居るものはフランスのパステール研究所のカルメツト氏の結核免疫法である。此の免

疫法は人間生れて一週間以内に之を始めて、三回に亘つて、免疫を施し、而も傳染しない結核の微菌を飲まずといふ方法である。此の方法に依て、子供が如何ほど結核に感染する機會に出遭うても傳染しない、さうして無事に成長するといふ主張である。此の方法は、フランス・ベルジウムあたりには、結核患者の間に出來た子供に對しては、既に數萬人も、これを行つて良好の成績を收めてをると稱するものであるが、他の國々では、その成績を疑ふ者が多くあつた。所へ、ドイツのリウベツク市で、この豫防法を行つた多數の子供が、ある過失から、大ぜい急性惡性の結核に罹つて死亡した、いはゆるリウベツク事件なる大騒動が起つたために、さなきだに、その効力の疑はれてゐた際とて、このカルメツト氏豫防接種は、これがために忽ちに前途が暗くなつてしまつた。

結核人工免疫に關する私たちの研究

私たちが過去二十年に亘り、熱心に研究してゐるところの

結核免疫元AO　といふものは、リウベツク事件の如き危険を起すおそれのない絶對安全の結核ワクチンであるが、種々の學術的研究と實施經驗によつて、間違なく結核の豫防を成就することができると信じてゐるものである。AOが日本政府の許可によつて世間に出てから、既に滿八年を過ぎてゐるが、この間に、私たちが及び賛成者達の手で、豫防注射を行つた、學童、學生、その他の公私諸團體は、現に私達に知れてゐるものだけでも、昭和九年七月迄に、八十四團體、二萬四千四百七十六人といふ多數に上つてゐる。また、昭和六年から同九年上半期に至る間に、吾邦の陸海軍隊だけで、既に約八萬人の人々にAO豫防注射を施した。その外、全國の醫師の手で、AOを以て治療された結核患者と豫防注射を受けた人々は、少くとも概算七十萬人に上つてゐる。また、結核豫防治療劑としてのAOは、日本を中心に全東洋の諸國は申すに及ばず、歐大陸の諸國、南北アメリカ、遠くアフリカ、オー

ストラリア等、殆んど地球上の三十有餘ヶ國に亘つて應用されてゐる。

これだけ多數の人々に、すでに八年有餘に亘つて廣く應用されてゐるが、未だ曾て、唯の一人も、それがために障害を受けたと告げた人がない。その豫防注射の成績は、吾々が既に、しばしば内外に學術的報告を發表してゐる通り、非常に良好である。

こゝにその二、三の例を擧げてみる。

ドイツのフツシマン博士　は結核患者の産んだ赤ん坊、すなはち、最も危険なる結核感染に暴露されてゐる初生兒百十二人に對し、AOを以て、生後一週間以内から、豫防注射を施し、その他に多數の豫防注射を行はない、同じやうな結核患者の子供と比較觀察した。

ところが豫防注射を行はない者の乳兒幼兒の死亡率は一五乃至四〇パーセントにも上るのであるが、AO注射を受けた者は乳兒の間には一人も死亡せず、昭和七年

五月迄に注射後長いのは満四年、短かいもの二年半を経てゐるが、その間に唯だ一人だけ結核性の病氣で死亡し、外に二人他の病氣で亡くなつた。つまり、一五—四〇パーセントも死亡するはずの子供が、二年半乃至四年の間に僅に二パーセントだけ亡くなつたのである。

大阪市で現に堀川乳堀院長をしてゐられる生地憲博士は以前今宮乳兒院長時代に九十六人の虚弱な乳幼兒にA Oの豫防注射を施した。この九十六人の子供は注射後滿三年近い觀察の間に唯の一人も結核には罹らず、その中の唯一人だけが麻疹肺炎で死亡したにすぎない。大阪の乳兒死亡率は實に世界第一とあつて、出産百人に對して、一年未滿の間に二十人許りも死亡するのであるが、既に生れつき弱い子供でも、A Oで注射を施せば、このやうによい成育率を示すのである。

瀬戸内海の一小島上、人口一四〇〇許の或る村落では、過去十年の統計で年々平均四、五人の結核死者を出し、一五人以上二〇人の結核患者を擁してゐた。昭和六

年十月以降、昭和七年夏季迄に初生兒から六八歳の老人に至る男女八〇〇人に、A Oを以て一回乃至五回（多くは四又は五回）の豫防注射を施した。約六〇〇人（此數は出稼ごと、歸村者が絶えずあるために甚だ不定である）は注射を受けなかつた患者は殆んど皆A O治療を加へた。

昭和八年末の調査によれば、

昭和七、八兩年中の結核死者は男四、女三、計七名。

内 男女各一、即ち二名はA O開始前の患者

一名 はA O開始後被接種者より發病

四名 はA O非接種者より發病

又昭和八年末現在患者は男五、女三、計八名。

内 三名 はA O開始前よりの患者

四名 はA O非接種者より發病

一名はAO接種者より發生し、AO治療三ヶ月にして殆んど全治してをる。二ケ年間の死者及び昭和八年末現在患者計一五名中、AO豫防接種に關係あるは死者一、殆んど全治の患者一、計二名のみである。残る一三名中五名はAO間始前よりの患者であり、八名はAO非接種者より發生した。

乃で、試みに、この一村落の全住民を、AO接種者八〇〇名のみと假定すれば、その八〇〇名中より、二ケ年間に二名の結核患者を出し、その一名は不幸の轉歸を取つたが、一名は早期治療によつて、速かに殆んど全治してをる。この後者は既に全治と見てよいのであるから、AO接種者八〇〇名の一村では、二ケ年以内にして既に完全に結核は撲滅されたと言へる譯である。

これとおなじことを、日本全國に施すことになれば、さしも難物の結核病も、日本全土から、速かにその影を没することになるではあるまいか。

こゝで、この結核豫防注射に就ての經費のことを少しく考へてみる。この瀬戸内

海の一村、八〇〇名の豫防注射は、同村の名望家にして村醫を兼ねてゐる一醫師がほんの業務の餘暇を用ひて行つたのであつて、勞力として尙い勞力ではあるが、比較的僅少の勞力である。日本全國の醫師は、我が祖國から、亡國病たる結核を驅逐するがためには、極めて僅少の報酬で、欣んでこの勞役に服するであらう。そこでAOの製造費は、假りに國費でこれを造り、無償で、市、町、村等に交附するとすれば、他は注射實施に要する僅少の材料費だけである。AO豫防注射を受けるためには、休息の時間を用ふれば、一時間と雖も業務の妨げとはならぬ。つまり、實施の任に當る醫師の勞力に對する報酬と、僅微なる材料費とにあらば、國家はこの有効なる豫防注射を、全國民に實施するを得るのである。

次には、昭和八年度にAO豫防注射を實施した、陸軍々隊中、本州北部、寒濕の地方の一軍隊の成績を引例する。

AO接種者 一、四一五名 結核性疾患發生 二〇名(一四、一%)
 否接種者 一、三〇六名 結核性疾患發生 七四名(三二、一%)

内譯

病名	AO接種者	否接種者
肺結核	〇	三二
肺炎	一一	七
胸膜炎	八	三三
其他	一	二
計	二〇	七四

急性氣管支炎及肺炎 五一(二二、一%) 一五一(六五、四%)

大中の都會地を離れた我國の各地には、今日と雖も、なほ比較的廣い結核處女地を遺してをる。これらの地方から兵役に徵集される壯丁者中には、結核菌に觸れたことのない人々が可なり多數に含まれてをる。こんな壯丁が兵舎の一室内に、都會地から出た壯丁と雜居することになると、可なり多數の人が、例の急性、慢性の結核に罹患發病する。だからして、帝國の軍部の衛生當局では、早くから、軍隊結

核防滅に腐心してをるのである。

帝國の軍隊にAOを用ひ試み初めたのは昭和六年である。そして昭和八年には約二萬八千人の兵士に、之を施した。右に示す表は、すなはちその一部分であつて、AOを注射しない壯丁からは、千對三十二強の結核性疾患が出で、急性氣管支炎及び肺炎といふ結核とは直接關係のない病氣も、千對六十五強も出たが、AOを注射した壯丁からは、結核性疾患は千對十四強、氣管支炎、肺炎は千對二十二強といふ少數であつた。しかも、AO注射を施した壯丁から出た結核性疾患は、比較的良形で、開放性結核(他人に傳染する)となる者はないこの事である。

昭和七、八兩年に行はれた軍部のAO豫防注射の成績は、その外もみな大同小異であつた。これは動かすことのできない事實である。

これとおなじことを我が帝國軍隊の全部に施すことになれば、軍隊の結核性疾患は、僅か一ヶ年にして、既往の半數以下となり、開放性結核となる兵士は極めて僅

少であるから、これ等の人々が、結核處女地たる郷里へ結核病を持ち歸ることも、從來に比して、殆んどなくなる道理である。學校方面の例を一つ挙げる。

福岡縣のある地方の某高等女學校は、女生徒の健康状態が非常に不良で、常に多數の病氣缺席者があり、縣下第一の不健康學校の名があり、全校無缺席といふ日は殆んどないといふ状態であつた。昭和五年の末から、生徒中の虛弱者數百名に、毎年、三乃至五回、A Oを以て豫防注射を施した。昭和八年に至つては、生徒の健康状態は著しく改善され、全校無缺席の日が毎日のやうに打ち續き、終に同縣下第一の健康學校と銘打つに至つた。

これとおなじことを、日本全國の小學校や、中等學校に施せば、全國の學生は、またみな同様に、全校無缺席の日を重ねて、愉快に學業にいそしむやうになるに違ひない。これとおなじことを、全國の師範學校の生徒や、小學校教員に施せば、學

校教員の結核問題、延いては、教室内に於ける兒童の結核感染問題も、亦速かに解消するに違ひない。

日本の各地で、結核患者の家族や、弱い小學兒童、學齡前の幼兒、中學校、女學校、師範學校等の生徒たち、工場に、會社に、働く若い人々、警察官、官、公吏、軍隊等を合算すると、前にもいふやうに、私たちの手許に知れてをるだけでも、既に約十八萬人に達し、注射の回數は、これだけでも裕に九十萬回に上つてをらう。その結果はいづれも無害で、良効を奏してをる。即ち、各人の健康状態が著しく佳良となり、結核發病者が著しく減じ、他の疾患に對する抵抗力も著しく増加するから、學生達に在つては、學業は優秀となり、その他に在つては、産業能率が揚り家庭も、世間も明朗となり、醫療費は減じ、人生すべてが健康にして活潑なる軌道に復するの實證が擧つた。これだけ多くの人體に用ひて、それで無害有効であれば百萬人、千萬人に用ひても、また必ず無害有効であるべきは、議論の餘地のない明

かな事ではあるまいか。だからして、この豫防注射を國民全體に用ふる段取になれば、我國の結核は絶滅し、延いては、全人類の結核も亦絶滅すると、私は固く信ずるものである。

吾々の結核豫防法の今一つの大なる特徴は、他の傳染病では既に傳染した人には豫防注射の効能がないのみならず、しばし有害であるが、AOでは、既に感染して發病間に在る人でも、或は既に多少の病徴を呈する人々にでも、亦皆同一の方式で豫防注射を施すことができ、また優良な成績を収めることができることである。前に記した、結核患者の家族とか、學生だとか、虚弱な人だとかはみなこの種類の人々で、既に感染してしまつてゐる人々であるが、それに注射を施して、ほんどうの結核患者になるを未然に防ぎ、健康を増進し、精神的並に身體的能率を増加するを得ることは他の傳染病の豫防注射に於て見るべからざる特徴である。

結 論

これを約めて言へば、AOを以てする結核豫防注射は、生れ立ての赤ん坊にも、幼少な子供にも、普通の成人にも、または既に結核に感染して、重症難治の病氣となるべき危険に瀕してゐる人にも、みなこれを施せば、一切無害で、且つ有効確實に結核性疾患の豫防ができる。しかも、その方法は皮下注射であるから、至つて簡單で、従つて廉價で、結核豫防法としては、最も理想的な良方法である。もしも政府に於て、かの痘苗を分配すると同様の手續で、これを普及させる曉には

ほんどうの結核豫防

が確實に成就するに違ひない。

世間の人は、病氣になつてから醫者よ、薬よ、とさわぐ、いはゆる泥棒を見て繩をなふものである。これではいけない。普通の醫術、即ち病氣の治療といふものは

譬へて見れば、衣服の破れか、家屋の破損を修繕するやうなものであつて、たとへ普通の風引き位なものでも、度が重なるほど完全なからだにはもどらないものである。のみならず、しばしば命を取る重病の元ともなるものである。だからして、何といつても病氣に罹らない用愼が一番である。吾々新時代の人間は病氣の豫防といふことについて、今少し確かな自覺をもつべきである。空腹になつてから米代をかせぐやうな愚かな態度をいつまでも取つてをてはならぬ。ことに結核は、現今の醫術の進歩のおかげで、よく治るものだとは言つても、それでも、日本だけでも年々廿萬人といふ莫大な人數が、多くは若い盛りの生命をそれがために奪はれてゐることを知るならば、治療醫學の力のまだく薄弱であることを知るに足るであらう。病氣にならぬ用愼が専一である。現在達者な人達が結核に罹らぬといふことになれば、次の代には結核は人類社會には無くなるはずである。これが私の心願である。

昭和五年五月十五日 一版印刷
昭和五年五月二十日 一版發行
昭和七年六月十五日 二版發行
昭和九年十月廿五日 改訂三版發行

一部定價 金拾錢
郵稅 金貳錢

著作兼印刷發行人 有馬 賴吉

印刷所 大阪市西區京町堀通一丁目十六番地
會社 日本社印刷所

發行所 大阪市西淀川區海老江上一丁目五拾七番地
有馬研究所圖書部

終

